

2022年3月28日
農林中央金庫 福島支店
JA三井リース株式会社 仙台支店
T・アグリプロダクト株式会社

T・アグリプロダクト株式会社の営農型発電事業拡大にかかる支援について

農林中央金庫（以下、「農林中金」）とJA三井リース株式会社（以下、「JA三井リース」）は連携して、T・アグリプロダクト株式会社（以下、「T・アグリプロダクト」）が取り組む営農型発電事業※1の拡大を支援いたしましたので、お知らせいたします。

※1.「営農型発電事業」とは、農地に支柱を立てて上部の空間に太陽光パネルを設置し、作物の栽培を継続しながら発電できるようにした事業のことです。太陽光を農業生産および発電で共有することから、“ソーラーシェアリング”とも呼ばれており、農村地域における再生可能エネルギー導入や土地を有効活用するモデルとして、近年注目されています。

T・アグリプロダクトは、福島県南相馬市にて搾乳牛40頭規模で酪農業を営む2019年1月に法人成りした農業法人です。主業の酪農業に加えて、営農型発電事業にも取り組んでおり、太陽光パネルの下では、飼料用の牧草を栽培しています。

T・アグリプロダクト代表取締役社長の瀧澤昇司氏（以下、「瀧澤代表」）は、個人で営農していた際、東日本大震災および原発事故の影響で生乳の廃棄、飼育牛の処分を余儀なくされました。そのような中、瀧澤代表は、酪農業を続けながら新たな収益源を確保すること、再生可能エネルギーを活用した発電で“脱原発”を推し進めること、南相馬市に点在している不耕作地を有効活用すること等を目的として、2013年4月に営農型発電事業を開始いたしました。

その後も営農型発電事業を拡大し、酪農業の持続的な事業継続を補完するまでに至りました。また、パネルの下で栽培している牧草は、自社消費に止まらず、余剰分を近隣農家に販売しております。飼料高騰の影響がある中で他の酪農家に対する貢献、国産飼料の活用、酪農および太陽光発電に次ぐ新たな収益源の確保という意味で、牧草栽培は大きな意味を持ち始めています。

将来的に、T・アグリプロダクトは売電によるさらなる増収で酪農業の規模拡大を構想しており、地域の新たな雇用創出や事業発展を通じて、地域経済の持続的な発展に貢献していく予定です。

農林中金は、T・アグリプロダクトの再生可能エネルギー事業の普及や地域経済発展への取組みが SDGs に寄与するものであること、J Aグループが掲げる生産者所得向上に資すること等から、アグリビジネス投資育成株式会社を通じて約5百万円の出資を行い、T・アグリプロダクトの構想実現を支援いたしました。

J A三井リースは、農林水産業の持続的成長への貢献をサステナビリティ経営における重要取組課題と位置付けており、T・アグリプロダクトの取組みにかかる社会的意義に着目し、今回T・アグリプロダクトが構想した南相馬市の不耕作地7,520㎡を活用した太陽光発電設備2基の設置に対して、ファイナンスを提供いたしました。

今後も農林中金とJ A三井リースは、投融資などの事業活動を通じて、農林水産業や地域社会の持続的な発展を目指し、新たな価値創造に挑戦する企業をサポートしてまいります。



(写真：T・アグリプロダクトの営農型発電設備)

【本件に関するお問い合わせ先】

農林中央金庫福島支店（田村）TEL：050-3853-7400

J A三井リース仙台支店（小田中）TEL：022-263-5882

T・アグリプロダクト株式会社（瀧澤代表）TEL：090-9749-6165